

昆布シートのスタンダード実現化に向けて

ヤマトタカハシ 株式会社

【対象類型】

ものづくり技術 試作開発+設備投資

【競争力強化の形態】

生産プロセス強化

【目的】

市場開拓



1／ロール状の昆布シートを引き出し、フィルム包装へと送り出す 2／コンビニおにぎり用のフィルム包装ライン。おにぎりの大きさに合わせてカットされた昆布シートが1枚ずつ包装されて出てくる 3／昆布シートを使ったおにぎり

昆布シートのおにぎり用フィルム包装を自社で。

昆布を薄く加工した「昆布シート」を、コンビニおにぎりののりの代わりとして拡販するため、昆布シート専用のおにぎり用フィルム包装ラインを整えた。

コンビニおにぎりに使われるのりや昆布シートは、店頭で目にする専用フィルムで包装した状態にして納品する必要がある。しかし、ヤマトタカハシにはフィルム包装するためのラインがなかったため、ラインを持つのり製造会社に昆布シートのフィルム包装を委託して納品していた。ただ、昆布シートはしっとりとした質感のため、乾燥

しているのり用の機械ではうまく送り出せず、破損や目詰まりといった不良が続出。のり用の機械に合うように昆布シートを乾燥させる工夫をしたものの、不良は依然として多く、量産に限界があった。

包装機器メーカーと開発した昆布シート専用のフィルム包装ラインは、ロール状になった昆布シートを引き出すことで送り出しの不良を軽減。コンビニおにぎり用のフィルム包装が自社で完結し、効率的な生産が可能となった。

「ロール状」シート 解決の糸口に。

のりのように、振動や風を使って包装ラインに送り出すことは不可能だった。ロール状の昆布シートを生産していたことが、シートを引き出してベルトコンベヤーに載せて送り出す仕組みを実現した。

昆布の風味 そのままに。

のりと同じ包装機械を使う場合は、のりに似せるために昆布シートを半乾燥させていたが、風味が犠牲になっていた。専用ラインはしつとり具合とともに昆布の風味を最大限活かすことに成功した。

コンビニでの定番化 スーパーなどにも。

昆布シートのおにぎりを、一部コンビニチェーンの期間限定商品から、各チェーンの定番商品に発展させるため、営業を展開。スーパーなどでの取り扱いも視野に、のり市場の1%獲得を目指す。

ものづくり専門員から一言

市場規模大きく 期待できる。

ブロック状に固めた昆布をスライスして作る昆布シートは、ヤマトタカハシ独自の技術を使っています。他社がまねできない商品を拡販することは収益増に直結します。コンビニの市場規模は大きく、期待が持てます。

こんな
会社です!

昆布にこだわり続け 日本の食文化を守りたい。

弊社は、京都の乾物問屋にルーツを持ち、昆布にこだわり続けてきました。日本の食文化は、だし、うまみの文化であり、素材、四季、手間を大切にします。この価値観は海外でも高く評価され、無形文化遺産になりました。ただ、現代の食は工業化され、多くの一般家庭では和食文化とは正反対にあるのではないのでしょうか。

日本の食文化を守るために、古来の味わいを大切にしながらも、現代の食生活に合うよう試行錯誤を続けていきたいと思っています。



代表取締役社長
高橋 一夫さん



企業キャラクターの「こんぶくん」。
LINEスタンプもある



敦賀昆布館外観

ヤマトタカハシ 株式会社

代表者名:代表取締役社長 高橋一夫
設立年月日:昭和24年7月18日
資本金額:5,040万円 従業員数:240人
業種:昆布卸・製造・販売
企業規模:平成26年度売上高50億円
〒914-0038 福井県敦賀市坂の下小河田3-1
☎ 0770-20-1000 FAX 0770-20-0055
URL yamatotakahashi.com/